

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.100  
2022.1



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomor \* 網張の森のマザーツリー \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomor

散策路から離れているため、ブナの貴婦人に会いに行くのは積雪期が良いでしょう。コースは網張ビジターセンターでお尋ね下さい。対面がかなったならば、しばし心の耳を澄ませてみてはいかがでしょうか？きっと慌ただしい日常の中で忘れかけていた感性に、再び光が当たるのではないのでしょうか？

鳥の渡り、潮の満ち干、春を待つ固い蕾のなかには、それ自体の美しさと同時に、象徴的な美と神秘がかくされています。自然がくりかえすリフレイン—夜の次に朝がきて、冬が去れば春になるという確かさ—の中にはかぎりなくわたしたちをいやしてくれるなにかがあるのです。

レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』より

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomor amiharinomorinoikimonotachi amiharinomor amiharinomorinoikimonotachi amiharinomor amiharinomor

▶ 網張ビジターセンターヒストリー ～今の姿に至るまで～ ◀

十和田八幡平国立公園の中で最も新しい時期に整備された網張ビジターセンターは、平成 17 年 1 月 21 日、雪の降りしきる中開館しました。今年で 18 年目を迎え、延べ 347,081 人（2022 年 1 月 21 日現在）の方々にご来館いただき、自然ふれあいの活動拠点としてご利用いただいています。網張の自然やビジターセンターの活動などを紹介しているニュースレターが 100 号を迎えるにあたり、ご来館下さった皆さまに感謝の気持ちをお伝えすると共に、17 年の歳月をかけてどのようにして今の姿になったのかを、ビジターセンターの立ち上げから深く運営に携わり、その活動を現在に至るまで支えて下さっている方々からのご寄稿を交えながら振り返ってみたいと思います。皆さんはどの頃からの網張ビジターセンターをご存知ですか？

2005 年

1/21 網張ビジターセンター開館！



- ◇自然ふれあい行事開催開始
- ◇「昔懐かしい登山・スキー用具」展示開始
- ◇企画展開始-工藤宏氏写真展「鞍掛山の花」（その後各出展者による展示を年間6回開催）
- ◇岩手山地区 PV 各行事支援
- ◇網張の森でヒメボタル初確認

ニュースレターVol.1 発行

- ◆「ニュースレターを連携の窓口に」
- 「自然ふれあい行事実施状況」
- 「岩手山地区 PV 活動」
- 「国立公園ひとロコメント」
- 「岩手山の自然豆知識」
- 各連載開始



2007 年

“網張の森”の誕生



- ◇「岩手山・秋田駒ヶ岳等自然観察ポイントマップ」「VCパンフレット」「網張の森セルフガイド」制作・発行
- 園路が整備され、パンフレット類も充実し快適に散策が楽しめるようになりました。

地元小中学校森林学習・職場体験の受入れ

現在も毎年のように森林学習等で活用していただいています。



2009 年

8/8 来館者 10 万人！



個人の他には毎年 30 前後の団体にもご利用いただきました。

2010 年

関西学院大学実習生受入れ

常設展示や園路利用の補足説明など客観的な視点で VC を見てもらう貴重な機会となり、2019 年まで継続。



学生考案の「岩手山ハカセ」

2006 年

岩手山まるごと体験ネットワーク



- ◇十和田八幡平国立公園（八幡平地域）指定 50 周年記念講座・行事開催
- ◆「自然ふれあい行事参加者からのメッセージ」
- 「岩手山地区パークボランティアからのメッセージ」
- ◇網張の森でコテングコウモリ初確認

2008 年

岩手山パノラマ写真展示



来館者からの山や自然に関する写真や図書、古い山道具など数多くご寄贈いただき展示が年々充実してゆきました。

“VC 運営の基礎作りに尽力”

「ニュースレター 100 号を迎えて - 繋がりの空間と携え岩手山を盛り上げよう！ -」



千村 勝哉 氏  
2005～2010 年度 主任解説員

・環境省を退職され数年経過しても、全国の現役レンジャーからアドバイスを求める電話がよくかかってきて親身に相談にのっている姿が印象的でした。  
・ニュースレターの原稿執筆時間が深夜に及ぶことも。何事にも全力で取り組まれていました。

ニュースレターがもう 100 号とは早いものです。17 年間で計 400 ページ余、歴史を感じます。私は開館後 35 号あたりまでの 6 年 3 か月ほどを館の運営に拘らせていただきました。当初は慣れないことばかりで手探り状態が続き、何かと苦勞の連続だったのですが、ビジターを含め多領域にわたる個人の方々や栗石町を始めとする団体の皆さまからさまざまな形で温かいご教示やご支援、ご参加を賜りまして何とか乗り切ることができたことが思い出されます。岩手山を楽しもうと志す実に多彩な方々からの、時には献身的なお力添えは本当に有難く嬉しく効果の高いものでした。

このような多くの方々等との連携や協働といった関係性は「繋がりの空間」とも言え

そうです。この繋がりに恵まれたお陰で各種行事や企画展示等も円滑に運び充実することができ、ニュースレターの向上にも反映させることができました。繋がりの空間は潜在的ですが「館の運営」とにとっては車の両輪のような関係をなし欠かせないものとなっています。この両者間のあり方によって館の運営の善し悪しや活性化も左右されます。当館においては、年々その関係性が拡がり発展している様子がその後のニュースレターでも拝見できますことは誠に喜ばしい限りです。今後ともこの幅広い繋がりと携えながら館の運営がさらに向上することで多くのビジターが国立公園岩手山の魅力を存分に楽しむことができますよう願いたします。

## 2011年

### 3/11 東日本大震災発生 ～3/31 まで休館

それまでの4月の来館者は1,400名前後でしたが震災の翌月は半減となりました。そのような中、いつもと変わらない自然のサイクルに力をもらいました。

### 「岩手山・秋田駒ヶ岳等 自然解説マニュアル」完成



◇千村勝哉氏退職  
大堀拓氏着任

◆「網張の森の生き物たち」  
「自然と人を守って」  
「モモンガのつぶやき」  
各連載開始

## 2013年

### ニューズレターVol.50 発行



◇解説員3人体制に  
◆水彩画エッセイ  
「岩手山三十六景と  
岩手山百景より」  
「展示コーナー紹介」  
「ようこそ網張へビジター  
さんにインタビュー」  
各連載開始

### クラフトコーナーも人気



行事参加や展示見学の他に、野鳥スケッチやクラフト作りなどを楽しむ姿も多く見られるように。

## 2014年

### ビジターセンター開館10周年！



◇記念行事「秋の千沼ヶ原を訪ねる」開催  
◇記念講座「岩手山で  
出会う花々」開催

8/9 来館者 20 万人！



写真や水彩画など毎回見応えのある企画展示も年間2万人前後の方々に来館していただけた大きな要因となっています。

### 網張の森セルフガイド刷新



それまでのモノクロコピーからフルカラーで見やすくなり、それを見ながら森を散策する姿がよく見られるようになりました。

## 2012年

### 小さな友達も リピーターに



子どもたちの先入観のない発想に刺激を受けています。

開館当初から開催している火山教室は現在も変わらず大人気です。

◆「網張 VC 周辺  
国立公園の風景」  
「元レンジャーの  
炉端話」連載開始



### センサーカメラの活用



なかなか出会えない森のいきものの姿が撮影でき、森での暮らしなどを手作り展示で紹介するなどより身近に感じてもらえるようになりました。

◆「佐和子先生の森と友達」  
「網張 VC 開設物語」  
「網張の森セルフガイド」  
各連載開始

### スノーシュー人気の高まり



鎌倉森登山者が年々増え、冬季行事への関心も高まってきました。

### “施設整備の尽力者”



二神 紀彦 氏  
環境省日光国立公園管理事務所

・私物の多ジャンルにわたる書籍をたくさんご寄贈いただきました。  
・“地元第一”の姿勢で単独駐在でありながら、関係者とのフィールドワーク、園路整備等精力的に尽力され「いつ休んでいるのだろうか？」と思うほど VC に来館し、困りごとと一緒に考え解決して下さいました。

### 「網張ビジターセンターとの思い出」

この度は、網張ビジターセンター・ニューズレターが100号を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

さて、私が網張ビジターセンターの運営に携わったのは盛岡自然保護官事務所（現、盛岡管理官事務所）に在籍した平成17年10月から平成20年3月までの2年6か月です。網張 VC が平成17年1月の開館ですから、VCの開館間もない頃でした。

網張 VC では、当時から網張の森や岩手山周辺などの恵まれたフィールドでさまざまな自然観察会を積極的に開催していて、いくつもの行事に参加したり、自然情報を受けたりと地域の自然を知るための貴重な場所でした。また、網張の森の整備をしたのもこの頃で、標識

整備やセルフガイドの内容を VC の皆さんと一緒に考えたことは思い出深いです。

現在は皆無になってしまいましたが、当時の盛岡事務所は単独駐在（一人きりの事務所）だったため、仕事や世間話などの相談相手として仕事をしていく上でとても助けられた存在でした。VCの気軽に立ち寄って話ができる雰囲気のおかげだったと思います。3年前（2019年）に私的な旅行で網張 VC を訪問しましたが、その雰囲気は変わらずにありうれしかったです。

未筆ながら、網張 VC の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 2016年

### 8/11「山の日」制定記念 トークイベント開催



岩手県や講師陣、関係者の方々と協力しながら、事前準備から会場設営など手作りで開催しました。

- ◇十和田八幡平国立公園（八幡平地域）指定 60 周年
  - ・記念式典パネリスト出席
  - ・記念行事「自然公園ハイキング in しずくいし」（雫石町と共催）
- ◇宮沢賢治生誕 120 周年記念イベント開催（滝沢市と共催）
- ◇「千沼ヶ原・烏帽子岳（乳頭山）」登山マップ完成
- ◆「指定までの長い道のり」「網張から見える山ノート」「AR 紀恵の公園駆け歩記」各連載開始



指定 60 周年記念企画展には、尽力された先人達のご親戚など関係者も駆けつけて下さいました。

## 2018年

### いわて雪まつり滝沢会場 スノーシュー体験



- ◆「喜作先生の自然スケッチ」連載開始

### ミッ石山 登山マップ完成



オリジナルマップ  
三部作の完成！

### 東北管内 VC 交流会



各 VC スタッフとの交流でイベント情報やパンフレットのやり取りがよりスムーズになりました。

## 2015年

### ミニ企画開始



「自然の本の読み聞かせ」や「VC 周辺生きもの探検隊」など予約なしで気軽に参加できる行事を企画しました。



- ◆「アミハリ・バース」「網張近辺今昔物語」各連載開始

「アミハリ・バース」は、これまで原画展を開催するなど人気の連載です。

### 岩手山・ 網張コースマップ完成



ビジターセンターオリジナルマップの第一弾。スタッフが実際に取材して作成し、VC でしか入手できない希少品です。

### 国立公園で楽しむ 親子の自然体験開始



小さな頃から自然に親んでもらう機会を増やそうと、親子対象の行事を本格的に企画しました。

### 隠れた人気の飼育展示



ヤマアカガエルの成長を楽しみに何度も来館してくれる親子も。

## 2017年

- ◇しずくいし産業まつり初出展
- ◆「十和田八幡平国立公園内の温泉を訪ねて」「岩手山地区パークボランティアの素顔」各連載開始

### 古い山道具も大切な 解説のアイテム



子どもたちの目には新鮮に映り、実際に使用した世代の方には懐かしく、世代間交流もできる空間でした。

### 「網張の森で いきものみつけ」



同じ森を歩いても見つけるものが違って、それぞれの発見を知ってもらうことで森の魅力が更にアップする展示には多くの方にご参加いただきました。

### 「懐深き開拓者」



大堀 拓 氏  
2011～2019 年度 主任解説員

- ・勤務時間の見直し、ユニフォームの導入、スタッフ間の頻繁なコミュニケーションの時間などより働きやすい環境を整えて下さいました。
- ・赤ちゃんから年配者まで、すべての来館者に分け隔てなく接している姿勢は、VC の「誰でも気軽に立ち寄れる場所」の見本そのものでした。

### 「ビジターセンターは出会いの場だった」

2011 年 3 月、あの震災が起きてまだ 10 日余り、前任の千村さんから仕事の引き継ぎを受けるために網張へ上がって来る途中は給油の見通しが立たないガソリンの残量ばかりが気になった。そこで膨大な（当時はそう感じた）業務の内容を聞き、それまでパークボランティアに参加しアクティブレジャーを務め外から何となくビジターセンターに接していたのと、実際に中に入って主任解説員を務めるという現実とのギャップの大きさにショックを受け、寒くて薄暗い館内でこれからどうしようかと途方に暮れた。それでも 4 月に入って細々と活動を再開すると少しずつビジターが顔を見せてくれるようになった。その中でも忘れられないのは、沿岸で被災し雫石町内の宿泊施設に一時

避難していた方々が時折訪れ館内でゆったりと過ごしていた情景である。年配の方々が多く、その落ち着いた表情にかえてこちらがドギマギしてしまった。ビジターセンターとは「国立公園の意義や自然保護の大切さ」を上から目線で伝えるだけの施設では無いと感じ始めたのもこの頃だった。肩に入っていた力が抜け、それぞれ違った境遇や様々な思いを持った人たちにどうしたら気軽に利用してもらえるかを考えるのが私たちスタッフの仕事と思えるようになった。9 年間勤務し 2020 年 3 月に退職したが私にとって網張ビジターセンターとはその豪壮な建物では無くそこで出会った多くの人たちと共有した時間と空間に他ならない。



阿部 丕頭 氏  
岩手山地区パークボランティア  
(2005~現在)

・写真展を開催するほどの腕前で行事のスナップを撮影いただき、完成度の高い写真記録集を迅速かつ丁寧に作成していただいています。  
・不動平避難小屋で長年続けている清掃等管理活動では“日本一きれいな避難小屋”と称されることも。

「パークボランティア 17年」

平成17年2月の養成研修会を経てパークボランティア(PV)に認定登録されて17年。この間、ビジターセンター(VC)の皆様には種々お世話になっている。初代の主任解説員千村さん、2代目の大堀さん、現在の川口さん。そして職員の皆さん。それぞれに個性豊かで人懐っこい人柄が来館者や行事参加者に親しまれてきた。我々PVにとっても気軽に立ち寄れる場所であることは、ひとえに皆様の人柄による。大変有難いことである。

今般、ニュースレターも100号を重ねた。その厚さは2センチ足らずだが、その内容の豊富さに改めて気付かされた。千村さんほか各分野専門家のシリーズものは貴重な資料である。その他、網張周辺の

折々の話題満載。特に表紙の写真はVC職員皆様の苦勞の結晶であり、「アミハリ・バース」も細部にわたり特徴を描いてみごと。毎回の楽しみとなっている。

さて、小生の初めてのVC主催行事支援参加は5月の鞍掛山自然探勝観察会だった。何をすればよいか分からない。黙ってついて行った。千村さんの丁寧な解説に感銘したが、自分には無理と悟る。以来、行事記録写真撮影等を担当してきた。

四季を通じての自然観察会は、運動不足解消に役立ち、一般参加者との交流は楽しみの一つ。また、PV仲間との活動は、退職して久しい自分には孤独感を防ぐ貴重な機会となっている。できればいま暫く続けたいと思う。

2019年

2/24 来館者30万人！ 欠かせないPVの支援



「網張の森」フォトブック等完成



オリジナル絵はがきの「アミハリ・バース」、「岩手山八景」も好評です。



開館以来、地元小中学校や各団体からの依頼される自然ふれあい活動にもPVの存在が欠かせません。

賑やかなメッセージコーナー



2020年

- ◇大堀拓氏退職  
川口智恵子氏着任
- ◇VC施設再整備工事
- ◇4/17-5/10 全国に発令の緊急事態宣言により休館
- ◇各行事の募集人数を半分に
- ◆「倒木を読む」  
「私のとおきのおきの一枚」各連載開始

12/11 リニューアルオープン！



「広々とすっきりした空間になった」との感想も。

2021年

リニューアルオープン記念写真展



「岩手山の表情」と題した中山太太郎氏8回目の写真展を開催しました。

- ◇ミニプラス開始
- ◇8/13-9/17 岩手県独自の緊急事態宣言発令により休館

夏休み特別企画 昆虫写真展



人気投票もたくさんの方が参加して下さいました。

ミニ企画の充実



「葉っぱのたたき染め」、「スマレウォッチング」などその時期ならではの行事も随時企画しています。

次号から6回シリーズで自然ふれあい活動や企画展示等の歴史をご紹介します。

「200号に向けて」

網張ビジターセンターがオープンした年の平成17年(2005年)に第1号が発行されたこのニュースレターがこの度100号の節目を迎えました。これもひとえに環境省をはじめ協議会の会員各位、パークボランティアの方々、地域の方々、そして何よりもご利用いただいている利用者の皆様のお力添えによるものでございます。あらためまして日頃からのご協力に協議会の構成員として感謝申し上げます。

この間、国立公園を取り巻く環境、流れは大きく変わってきたように思います。それまでの主要な目的が「保護」であったのに比べ、「利用」あるいは「利用と保護」のバランスを取ることを目的とすることがより明確になってきたと思います。その代表例は「国立公園満喫プロジェクト」でしょう。日本の国立公園を国際標準レベルに引き上

げる施策です。国立公園と言えば米国の例が浮かびますが、日本の国立公園は米国のような規模や非日常性はあまり持ち合わせていません。日本の「里山」に代表される身近な魅力をいかに発信し、来訪を促し、価値や体験を提供し、ファンになっていただくかが重要です。その観点からもビジターセンターやこのようなニュースレターの役割は益々重要になっていくでしょう。新型コロナウイルス禍の中100号の節目を迎えましたが、200号の節目を迎える頃にはこのニュースレターも英語版が出ていたり、またはデジタル化されているかも、などと個人的な期待はあります。皆様方の更なるご支援の下、さらに充実したニュースレター、ビジターセンターの運営が行われることを祈念いたします。

“VC運営の伴走者”



鎌尾 宗慶 氏  
網張ビジターセンター運営協議会 幹事  
(休暇村岩手網張温泉支配人)

VC施設管理など隣接する休暇村岩手網張温泉の支援は不可欠です。

# 自然観察会報告

写真提供:岩手山地区パークボランティア

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

## 12月25日(土) 「クリスマスを新雪の 網張の森で★」 —スノーシューハイキング—



前の晩に降ったフカフカ雪のコンディションのもと、動物の足跡や越冬中のカミキリムシを見つけたり、樹木などのお話をパークボランティアさんに伺いながら、「マザーツリー」を目指しました。参加されたお子さんたちは、雪の中へダイブ！天使の羽の跡をつけたり、斜面を滑るなど雪の世界を満喫しました。サンタさんも登場し、クリスマスソングも歌いました。総勢 28 名参加

## 1月16日(日) 「この時期しか歩けない！ 冬の鞍掛山麓探検 スノーシューウォーク」



今回は、鞍掛山麓に広がる相の沢牧野を通り、春子谷地展望台を目指して歩きました。道のないところも自由に歩けるのがスノーシューウォークの楽しみ。固く締まった雪の上に自分の足跡をつけながら、美しい牧野の冬景色を堪能しました。「冬の楽しみ方を教えてもらいました」参加者感想より。総勢 25 名参加

## 新企画「森のぬり絵に挑戦！」 12月11日(ミニ企画)



参加者作品から

館内での体験プログラムに新しい企画が登場しました。網張周辺で見られる植物や動物、風景などから好きなものを選び、見本を見ながら水彩絵具または色鉛筆を使って彩色します。小さなお子様から大人までお楽しみいただけます。是非一度ご体験を！

## 好評です！森の材料で作る 手作り体験(ミニ企画)



11月中旬から12月は森の恵みを頂いて創作するクリスマスリース作り・クリスマスオーナメント作り・木の実でクラフト体験などを行いました。自然素材の形の美しさや不思議さにも関心が集まり、それを生かした作品ができあがりました。

## 1月8日～3月27日 毎週土日開催 「網張の森雪上ハイキング」



冬季恒例の人気行事の1つです。動物の足跡探しや、植物の冬芽を観察しながら1時間ほど森を歩きます。運が良ければ野鳥の姿を見ることもできます。初めての方やお子様連れでのご参加も大歓迎です。

## ◆◆ 冬季特別企画 ◆◆ 「網張の森にすんでいる動物たち」

センサーカメラで撮影された動物の写真展・動物の足跡クイズ・動物たちの衣替え・動物スケッチ体験などを通して、森の動物たちが冬をどのように過ごしているかを楽しみながら考えていただきました。



## インフォメーション

### 2月26日『雪の鎌倉森をめざす』 (冬山登山体験)

9:00～14:00 網張ビジターセンター集合  
定員:10名 ※定員に達しました  
参加料:大人500円 小学生300円  
(スノーシューレンタル別途100円)

### 4月3日『根開きのブナの森で春を探そう』 —スノーシューハイキング—

9:30～14:00 網張ビジターセンター集合  
定員:10名  
参加料:大人500円 小学生以下300円  
(スノーシューレンタル別途100円)

## —現在開催中のビジターセンター企画展— —中川 智恵子 水彩画展— 「山景色を歩く」

期間:1月6日(木)～2月27日(日)

### ◆◆◆ 中川智恵子氏プロフィール ◆◆◆ 盛岡市在住 登山ガイド 美術講師

「岩手の山は、四季折々に魅力的な姿を見せてくれます。作品をご覧ください。皆様と一緒に山を歩いているような気持ちになっていただければ幸いです」

出展者の言葉より



## モモンガのつぶやき

おかげさまで、無事に100号を発行することができました。構想から約半年。その間17年間を振り返る日々でしたが、写真や資料などを見返していると、今ではあたり前のように会話している方々と出会った頃の記憶なども思い出され、たくさんの時間を共有させてもらい、積み重ねてきたのだなぁと感慨深いものがありました。

何気ない日常のスナップ写真には、飾らないVCの本質がそのまま写っているようで、より記憶を刺激してくれました。(佳)



## 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 11月 1,037人 ◆ 12月 470人  
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 11月 1.3℃ ◆ 12月-5.5℃

## 発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)  
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778  
URL <http://amihari17.ec-net.jp>  
E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 冬期 (11月から3月末まで) 9時～17時 毎週火曜日休館